



自立活動の実際 ～特別支援学級を訪問して～

自立活動の「自立」とは、「独り立ち」や「助けなしで物事を行うこと」ではなく、「児童生徒それぞれの状態に応じて主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすること」です。今年度訪問したケースより、自立活動の指導を考えてみます。今後の指導を進めるにあたり、本人の願いに加え、現在の生活年齢・発達段階・学習履歴等を考慮し、自立活動の学習評価と指導の評価、目標の再検討をしてみましょう。（文責：藤原恵理子）

排せつの自立を目指した取組

排せつの指導においては、排せつ機能自体に障害があるため、紙パンツを使用する場合があります。その際の、「排せつの自立」は、「トイレのきれいな使い方を身に付ける」という考え方もできます。

「きれいな」とはどんな状態でしょうか。例えば、「次の人が使える状態」「自分が次の人だったら使いたいと思う状態」と考えてみるとどうでしょう。便座は？床は？トイレトーパーは？紙パンツの後始末は？たとえ排せつが確立していなくても、トイレの状態がきれいであれば、他人に迷惑をかけることはありません。排せつの指導を継続しつつ、チェックリストを児童生徒と一緒に作成する等、今できることと先につながる方法や内容を考えてみましょう。

その際には、主体的に取り組めるよう、つまずいていることだけでなく、できていることや長所などを生かせるような方法を取り入れてみましょう。



体を動かす活動を中心にした取組

運動やトレーニング等の体を動かす内容を取り入れている自立活動について考えてみます。

ウォーカーで歩行練習、体幹トレーニング、ストレッチ等、ともすれば体育との違いが曖昧になってしまうことがあります。その場合は、その内容が何につながっているのかを明確にし、児童生徒と共有しましょう。

例：歩行練習等

- 自分の力で体育の徒競走を走りたい。
- 自分の力で教室移動をしたい。

例：体幹トレーニング等

- 学習中の姿勢の崩れを少なくしたい。
- トイレの便座に一人で座りたい。

例：ストレッチ等

- 1日の日課を元気に過ごすために、体の緊張を緩めたい。

自立活動は「調和的発達の基盤」ですので、身に付けた力が学習や生活の中で発揮できているかを評価し、それを児童生徒と共有していくことが大事です。



できること、得意なことを生かして～みんなのお仕事引き受け隊～

【中学部：自立活動を主とした課程】



を楽しんでいます。期限内に納入し、先生方に評価してもらうことを励みに、意欲をもって取り組んでいます。

中学部3年2組では、校内の装飾などを請け負い、みんなの役に立ちたいと考え、架空の会社「ガールズカンパニー」を設立しました。目標を設定しやすくするために、先生方からの依頼は、用紙に記入してもらうのと同時に、直接お話してもらうようにし、やりとり



自立活動：上肢～手指を使った諸動作～

～専門家（OT：作業療法士）の助言より～

・利き手が決まっていないので、両手を使うようにし、できるだけ、両手を交差させる活動をするとうい。

【物を握ったり放したりする】

【両腕を内から外側へ動かす】



カスタムハサミやカスタネットバサミ（ばねが付いています）を使用



紙ちぎりや剥離紙剥がし

○助言をもとに、事前に活動の見本を見せたり、教師と一緒にいたりすることでやり方を覚えるようになってきました。

さらに物を握る手の形を作り、掌握する動作（球状の物を取って皿に入れる等）、指先でつまむ形を作り、指先で物をつまむ動作（アイスの棒など指でつまむ等）などを活動の事前に入れることで、より手指の動きが円滑になるようです。苦手なことや難しいことも、経験を重ねながら、生活の中でできることを増やしていきたいと考えています。（文責：飯澤 朋子）

教育専門監のつぶやき

自立活動で生活を豊かに

「自立活動でどんな内容を指導したらいいですか？」特別支援学級の先生からよく尋ねられることです。なぜなら自立活動は児童生徒の実態に応じたオーダーメイドの指導領域であるため、指導目標や内容が決められていないからです。また、自立活動の目標に“学習上又は生活上の困難を改善・克服”とあるため、苦手なことに対するリハビリ的な学習活動を設定してしまう傾向もあります。

今回の「ガールズカンパニー」の実践は、「得意なことを生かして」や「みんなの役に立ちたい」がキーワードになっています。“学習上又は生活上の困難”である手指の動きにアプローチするために、専門家の助言をそのまま指導内容に取り入れるのではなく、受注や納品等の場面を設定することで、生徒が好きな“人との関わり”を通して意欲付けを図っています。さらに、「〇〇先生喜んでくれるかな」と納品する相手に思いを馳せながら取り組むことで、苦手としている指先を使った制作活動にも期待感をもって取り組んでいます。

「〇〇を作ってもらえますか。」と依頼された際の張り切った表情や「ありがとう、助かるよ。」と感謝された際の誇らしげな表情からは、一人の活動だけでは得られない自己有用感の高まりが感じられます。（文責：藤井 奈緒子）



教頭 佐藤 茂樹 地域支援部主任 高橋 亜紀

住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018（889）8573 FAX：018（889）8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>